

はじめに

板木踏切の近くに、小さなお堂があります。

これは、丁度サンフランシスコ講和条約が調印された年、当時の川地村と志和地駅駅長を世話人とする国鉄とが、どうかこの板木踏切で汽車にはねられて尊い命を落とす不幸がなくなります様にとの願いを込めて、また、今までに命を落とされた方々の安らかならんことを祈って、踏切に隣接して建立したお堂です。戦争の傷は未だ癒えておらず、誰もが貧しかったが、それでも協力し合って、建てたお堂です。

このお堂が建てられて以来、板木踏切で命を落とす人は出ていないそうです。皆、危ういところで難を逃れたそうです。温かい鉄道ファンの皆様。芸備線の列車に揺られてこの観音堂を訪れ、すべての踏切で人の命が失われることのない様、心から願ってみませんか。

